

# 上海レポート

令和4年1月号

Vol.17



公益財団法人 大阪産業局 上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn  
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20220104号	中国の新型フィットネスジムを体験してきました	副所長 前田千晶
20220110号	上海人はアップルが好き？	所長 南浦秀史
20220117号	造語に見る中国現代社会 No.1 「タン(「身」へんに「尚」)平」	所長助理 徐潔
20220124号	1年半の駐在期間が終わりました！	副所長 前田千晶
20220131号	上海で感じる芸術文化熱の高まり	副所長 大山知宏

## 中国の新型フィットネスジムを体験してきました

中国に来てからショッピングモールを歩いていると、フィットネススタジオを見かけることが多いです。特に上海では「SUPERMONKEY(超級猩猩)」をよく見かけます。今回は、流行りの「SUPERMONKEY(超級猩猩)」のレッスンを受けましたので報告します。

国泰君安証券の分析によると、2019年末時点では2.95億元(約50億円)であったスポーツ産業の総規模が2025年には5兆元(約85兆円)に達する見込みだそうです。「SUPERMONKEY(超級猩猩)」は2014年に深センで創業し、北京、上海、広州などの大都市に200弱の店舗があります。同社は多種多様なフィットネスプログラムを展開し、レッスン形式は主にグループレッスン、マンツーマンレッスン、オンラインレッスンです。レッスンの種類は100種類もあり、1レッスンはわずか1時間で終わります。同社のレッスンはニュージーランドの大手レズミルズのような有名フィットネスクラブから購入したものと、独自開発したものから構成されていて、欧米のものをそのまま持ってきただけでは効果が同じように出るとは限らないため、大学、研究所とともにアジア人に適したプログラムの開発に取り組んでいるそうです。

また、24時間無人経営で、予約はwechatのミニプログラム上からできます。スタジオへの入室は予約後に受け取るパスワードで行います。グループレッスは10人前後に制限されていて、先生は場所、時間によって変わります。従来のフィットネススタジオは年会費を支払って利用する形が多いですが、1回単位でレッスンを購入できるため、より気軽に利用できるのが利点です。中国では、多くの場面で回数券の購入を促される機会が多かったため、この取り組みは顧客目線の素晴らしい取り組みだと感じました。

同社の人気の秘訣は、顧客視点を大切にし、中国人に合わせたサービスを提供できている点であると思います。



---

## 上海人はアップルが好き？

---

中国での生活にスマホは必需品です。パスポートがなくなると、それはそれで問題ですが、なくても特に日常生活に支障は来しません。ですが、スマホがなくなると、途端に何もできなくなります。公共の場所に入る際に必須となる健康コード、PCR検査の結果表示、ワクチンの接種証明、電子マネー、公共料金や家賃の支払い、出前の注文やネットショッピング、仕事では、名刺交換の代わりに、Wechat ID を交換することが当たり前で、それらはすべてスマホを通じて行います。

アメリカの調査会社 IDC が定期的に発表している中国でのスマホシェアがあります。2020 年の調査結果によると、華為(ファーウェイ)、VIVO、OPPO、小米(シャオミ)、Apple という順位だそうです。しかし、私たちが中国で会う人が使っている率が高いのか、それとも、上海では特に Apple が売れているのか、何か理由があるのかも知りませんが、よく Apple のスマホを使っている人を見ます。

関西地域に Apple ストアは、大阪と京都に一つずつ、2カ所しかありません。ここ上海市内には、心斎橋のストアと同じくらいの大きさ、もしくは、それ以上に大きな店舗が 7 箇所あります。いつ前を通ってもお客さんと賑わっています。

さきの調査会社のレポートでは、アップルは全体の出荷台数こそ少ないものの、ハイエンド端末分野でシェアを伸ばしているそうです。例えば 2021 年 1-3 月期における中国の価格 800 ドル(約 8 万 8000 円)超のスマホ市場で、アップルのシェアは 72%もあるそうです。目にする機会が多いのは、そういうことが影響しているのかも知りません。



---

## 造語に見る中国現代社会 No.1 「タン(「身」へんに「尚」)平」

---

中国の日常生活や電子世界では、日々、新しい言葉を生み出して、愉しむ文化があります。日本式に言うと「流行語」、英語で言うと「ミーム(Meme)」といった位置づけです。「タン(「身」へんに「尚」)平(タンピン)」という言葉も、このように新しく生まれた単語で、2021 年、非常に流行った新しい中国語のひとつです。

日本のメディアや YouTube などでも何かと取り上げられていたので、目や耳にされた方もいるかもしれません。「タンピン」は日本では「寝そべり族」と訳されて紹介される事が多いようです。これは中国の若者に広がっている「あきらめ」のライフスタイルを意味しています。「相手や社会がどうい状況でも、反応も抵抗もせず、心穏やかにあきらめて寝そべり続けるような人生の姿勢」なのです。

親や社会から「良い大学に入れ、良い仕事に付け、良い結婚をしる、良い子どもを育てる」とプレッシャーを与え続けられて来た新世代が、理想に到達できないのなら、もうあきらめるしかないと観念した為に生まれた言葉です。あるいは「寝そべり族の生き方こそが、親や社会を失望させる事の出来る最大の抵抗」と考える人もいます。面白おかしく自嘲気味に語る事もあれば、深刻な状況で語られる事もあります。

この言葉、戦争映画の死体役を演じている俳優が語った「金がある時は家で横になり、金が無い時は撮影現場で横になる」というジョークがもとになっているのだとか。自然の流れに身を委ねるという意味では老子がめざしたような生き方ですね。みなさんは、どう思いますか？

## 躺平学

躺平学，网络流行词，放弃拼命工作攒钱焦虑伤身的生活，主动低欲望地生活的一种生活哲学。



出典：你真正了解“躺平”是什么意思吗\_腾讯新闻 (qq.com)

---

1年半の駐在期間が終わりました！

---

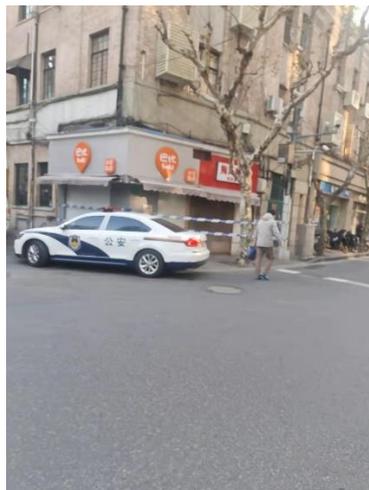
私は2020年8月に上海にやってきて1年半副所長として勤務していました。私にとって上海での駐在は初めての海外生活で、驚きの連続でした。

まず日本食のお店が上海にたくさんあることが驚きでしたが、老若男女問わず、沢山の人が日本語を話せることにも驚きました。中国人は道を尋ねる等、知らない人にも気軽に話をする人が多いです。私の中国語のせいか、少し会話するとすぐに日本人とばれてしまい、日本語をあまりわからない人でも日本語の単語を話してくれるが多かったのが印象的でした。

また先日登壇したセミナーでは困ったことはないと伝えましたが、実は1つありました。帰国目前に、私の自宅附近でコロナウイルス感染者が発生し、近くに住んでいる私は不運なことに隔離されました。隔離された時は本当に日本に帰れるのかと不安になり、PCR検査会場で思わず泣いてしまいました。そんな時に同じマンションの中国人はみんな優しく接してくれて、偶然、住民の中に日本語が話せる中国人がいたので一生懸命日本語で慰めてくれました。

まだ最終的に日本に帰ることができるかは、飛行機に乗るまでわからず、不安な毎日を送ってはいませんが、無事日本に予定通り帰ることができた時にはきっと隔離も最後の良い？思い出になるのではないかと思います。

このようにやはり上海に来てみないと日本に関心がある人、日本語を勉強している人がこんなにいるとはわかりませんでした。帰国後は、上海で経験したことを大切にして、前向きに頑張ります。



---

## 上海で感じる芸術文化熱の高まり

---

今、中国は春節休みの真最中です。コロナ前の2019年、春節前後の約40日間で約30億人もの旅客数がありましたが、感染拡大防止の観点から、今年は極力移動をせず、各地で年越しすることが奨励されています。そのため、帰省や旅行が出来ない人々が楽しめるよう、上海市内でも、芸術鑑賞など様々なイベントが開催されています。今回は、この芸術文化に関連するお話です。

ここ上海は、芸術文化の動きがとても活発な都市です。上海市文化旅游局の2021年の報告によると、この10年で上海市内の美術館は20館から96館にまで大幅に増加したとのこと。昨年は、大阪が誇る世界的にも著名な建築家、安藤忠雄氏の展覧会が上海市内で開催され、約15万人を動員しました。

また、鑑賞だけではなく、若年層を中心としたアート作品の発表・売買等も気軽に行われています。毎年秋頃に上海市内で開催されるアートブックフェアに、2019年から大阪出身の作家が出張参加しており、今年も参加予定でしたが、渡航制限で現場対応が出来ないため、私に応援依頼があり、勉強も兼ねてお手伝いをしてきました。ビジターとして訪問した前回も、建物に入るには長い行列が出来ましたが、今回もたくさんのビジターで、その半数以上が20代の若者です。印象的だったのは、作品の購入だけが目的でなく、売り手である作家との交流を楽しんでいる人がとても多かったことです。その一方で、何万円もする作品を値段も聞かずに「これください」と購入していくお客さんも！中国マネーの一面を見た気がしました。

上海市内の龍美術館では、大阪出身の現代作家、塩田千春の個展が開催中で、約5,000円の入館料をものともせず、多くの人々が鑑賞に訪れているとのこと。芸術文化のジャンルでも、中国は大きなビジネスチャンスがありそうです。

